

ガザに生きる



土井敏邦・ドキュメンタリー映画 5 部作

イスラエルによる封鎖と砲撃で、ガザは瀕死の状況にある。1993年の「和平合意(オスロ合意)」で「中東の香港」を夢みた住民たちの希望は粉碎された。何がガザの現状を生み出したのか—パレスチナを代表する人権活動家ラジ・スラーニの解説を通して、第1次インティファダ(民衆蜂起)(1987年)からガザ攻撃(2008-09年)までのガザの歴史を映像でたどる。

1部 ラジ・スラーニの道

ガザの名家に生まれ育ったラジ・スラーニは、占領下の民衆の過酷な状況と自らの占領体験によって、占領と闘う政治活動に身を投じた。そのためイスラエル当局に投獄され、5年近い獄中生活を強いられる。占領下で人権弁護士として活動続けるラジの半生を通して、ガザに生きる人びとの生と死を伝える。



2部 2つのインティファダ



占領への怒りが爆発した第1次インティファダは、パレスチナ社会の変革運動でもあった。だがその結末の「オスロ合意」は“占領の合法化”だったことを知った民衆の失望と怒りは、再びインティファダとして表出する。この過程を主導したアラファトの歴史的な功罪は何だったのかをガザの指導者たちが総括する。



3部 ハマスの台頭



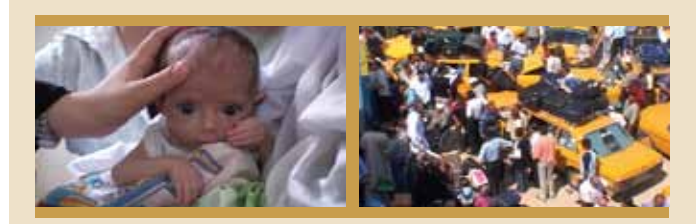
イスラエルのガザ撤退(2005年夏)の背景を探り、それを支持拡大に利用したイスラム抵抗運動「ハマス」の実態に迫る。占領下で窮乏する民衆を支援する慈善組織の顔と、占領に武力で抵抗する武装組織の2つの顔を持つハマスが、ガザ地区を実効支配するまでに勢力を拡大した背景とその影を描く。



4部 封鎖



勢力拡大したハマスと、これを支持する民衆への“集団懲罰”としてイスラエルは、ガザ地区の“封鎖”を強化した。住民は食料や医薬品など生活必需品の不足に苦しみ、移動の制限のため海外での治療や仕事の機会さえ奪われてしまう。さらに崩壊したガザ経済の下、若者たちは失業し将来へ希望も断ち切られる。



5部 ガザ攻撃



イスラエルのガザ攻撃(2008年12月~1月)は約1400人(7割が民間人)の犠牲者を出した。被害は人命や家屋に限らず、工場や農地など産業基盤も破壊された。その被害の実態を遺族や関係者の証言を元に詳細に報告する。一方、この攻撃を大半のイスラエル国民が支持した背景を有識者の声から探る。

